
目次

- 【1】 --- 教員コラム 17 弾 第 9 回
「ビジョンと戦略からはじまる地域医療学のブレイクスルー」
総合医療・地域医療学/四方哲

- 【2】 --- 2024 年電子ジャーナルの購読終了について

- 【3】 --- 芥川龍之介の未刊小説、本学で発見

- 【4】 --- 看護師（保健師）国家試験問題 WEB トライアル中

- 【5】 --- 図書館の本、お持ちでないですか。～年末大掃除のススメ

- 【6】 --- 雑誌製本に伴う一部雑誌の利用停止について

- 【7】 --- しおりコンテスト受賞作発表

- 【8】 --- 2023 年の図書館ニュースなど

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

- 【1】 --- 教員コラム 17 弾 第 9 回

「[ビジョンと戦略からはじまる地域医療学のブレイクスルー](#)」

総合医療・地域医療学/四方哲

2021 年に「[ビジョンと戦略からはじまる地域医療学のブレイクスルー](#)」（中外医学社）を上梓し、本学の図書館にも寄贈しました。2012 年から 9 年間、三重県立病院長として経験したことをまとめ、医療者ではない方々にも理解できるように推敲を重ねたものです。

自治医科大学を卒業し京都府での9年間の義務年限も終盤に入った2000年のある日、山奥の小さな公立病院に勤務していた私は「総合診療」と「地域医療」という二つのコトバについて、それまで信じて疑わなかっただけで、実はさしたる考えがないだけではなく、手ごたえすらないことに気がつきました。これらは実体なのか概念なのか、つまり確実に存在する現象なのか単なるコトバなのかという命題です。このようなことを考えること自体、総合診療や地域医療そのものの存在に懐疑的になっていたことの証左かも知れません。2003年に不完全燃焼感がつきまとうまま義務年限を終えました。その後、2012年にご縁があって三重県で二回目の義務年限を自主的に課してみることになりました。三重の青山高原の麓で広大な星空をぼんやりと眺めているうちに「総合診療」や「地域医療」という実体の存在証明は止めて、これらのコトバとその周辺との関係性を基に自分の頭の中で構築してゆかないのだ、と考えるようになりました。とはいえ、同じような自問自答を毎日繰り返してみたところで何も構築できないまま月日は流れてゆきました。

2020年、二回目の自主的義務年限として9年間を過ごした三重を去り京都に帰ることを決意しました。不思議なことに帰京を決意したその夜から、それまで乾ききっていたコップの底から水が溢れ出てくるかのように、忘れていた記憶がリアルな感情と共にとめどもなく甦り始めました。それを毎朝、かき集めながら言語化したものが本書です。拙著を読んだ識者からは「期待を裏切る医学書だ」、「医学書というよりは私小説だ」、「ソファで寝転んで読むのに丁度よい内容だ」、「こんなことを書いてしまって君、大丈夫か」というお褒めの言葉を頂いています。

地域医療とは単に田舎で医療をすることではないし、どこかの地域で医療をすることでもない、さらには医療の一部でもない、という私の極論の真意がどこまで受容されるものなのか、まったく想像できません。読者から「そうそう、俺が言いたかったのはそういうことだ」という共感や「それは違う、こうやろ」というご意見を頂けることをとても楽しみにしています。

※教員コラム第17弾は今号で終了です。今年度は、図書館長(新任)、学長(500号記念)、新しく教授に就任された先生方に、図書館や本に関する興味深いエッセイを書いていただきました。9名の先生方、ありがとうございます。(編集子)

過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 2024年電子ジャーナルの購読終了について

.....

2024年1月以降の電子ジャーナル購読タイトルは、引き続き価格高騰等による購読費増

額分を圧縮する必要があり、利用度等を鑑みて一部タイトルの購読を中止いたします。利用者の皆様にはご不便をおかけすることになります。何卒ご了承の程お願いいたします。

◆購読中止

- ・ [American Journal of Tropical Medicine and Hygiene](#)
- ・ [Quintessence International](#)
- ・ Ovid Nursing Full Text [44 タイトル](#)

2024 年以降、上記の文献は[相互貸借\(ILL\)](#)にて、他大学等所蔵機関から複写物を取寄せます。
(お申込は[マイライブラリ](#)またはカウンターで承ります/有料)

【3】 --- 芥川龍之介の未刊小説、本学で発見

.....

本学で所蔵する医学雑誌『體性』4巻6号(1923)に芥川龍之介の「愛は悩みにも燃ゆ（三つの指輪。お伽噺）」という作品が掲載されています。このたび芥川研究における新発見となり、ただいま現物が田端文士村記念館で展示されています。

『體性』という雑誌は土肥慶藏が1921(大正10)年に創刊した、財団法人日本性病予防協会の機関誌です。非常にユニークな雑誌で、医師やコメディカルばかりでなく、一般人にも購読会員として入会や投稿の門戸が開かれており、学術的なものから産児制限論、下世話な恋物語、伝説、奇聞なんでもありの斬新な内容です。

「三つの指輪」のお伽噺は、これまで芥川龍之介が講演で語った速記録に概要が残されていましたが、長く未定稿とされてきました。このたび医学雑誌『體性』に書き下ろされていたことが発見され、本学で所蔵している現物が未製本だったこともあり、東京の田端文士村記念館から現物を貸借したいと依頼がありました。

田端文士村記念館開館30周年記念展『古典的作品の再現者 芥川龍之介「宇治拾遺物語」から「千夜一夜物語」まで』は2024/2/12(月祝)まで開催中です。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

【4】 --- 看護師（保健師）国家試験問題 WEB トライアル中

.....

過去15年分の看護師国家試験の問題・模擬問題・解答、解説、参考資料を収録した国試

の総合データベースをトライアルで提供中です。※登録制 10 名

◆アクセス先は[こちら](#)

◆利用ガイドは[こちら](#)

利用開始手続きについては図書館でお渡しするシリアルカードをご確認ください。

◆トライアル期間：2024/1/25(木)まで

【5】 --- 図書館の本、お持ちでないですか。～年末大掃除のススメ

.....

先日蔵書点検を行ったところ、12冊の図書が見つかりませんでした。いずれも人気のある図書で、利用者の皆さんが困っています。もし大掃除などで見つけたら、返却をお願いします。

《不明本》

CBT・医師国家試験のためのレビューブック小児科 第4版 2021-2022

ムーア臨床解剖学 第2版

ムーア人体発生学 原著第6版×2冊

イラストレイテッド生化学 (リッピンコットシリーズ)

正常画像と比べてわかる病理アトラス:全身がみえてくる! 118疾患 1000画像 改訂版

わかりやすい病理学

病原体と免疫がよ〜くわかる本: ポケット図解

糖尿病・代謝・内分泌 第3版 (病気がみえる:v. 3)

脳・神経 (病気がみえる:v. 7)

腎・泌尿器 (病気がみえる:v. 8)

慢性期看護:病気とともに生活する人を支える 改訂第3版(看護学テキスト nice. 成人看護学)

【6】 --- 雑誌製本に伴う一部雑誌の利用停止について

.....

2021年発行雑誌を中心に[製本作業](#)を実施します。ご不便をおかけしますが、何卒ご協力のほどお願いします。

◆貸出停止日：2023/12/15(金)から

◆閲覧停止日：2023/12/26(火)から ※出来上がりは 2024/2 頃の予定です

◆対象資料：[和雑誌+洋雑誌](#)

【7】 --- しおりコンテスト受賞作発表

秋の読書週間企画『しおりコンテスト』には、おかげさまで18点の作品をお寄せいただきました。どれも力作ぞろいで、皆さまのアイデアとクオリティーに驚きました。

優秀作品（金賞、銀賞、銅賞2点）を、[こちら](#)で紹介しています。金賞は広小路キャンパスを本や文房具で表現した、楽しい作品です。

【8】 --- 2023年の図書館3大ニュースなど

令和5年最後のメールニュースは長文になりました。最後までご覧いただきありがとうございます。今年は広小路キャンパス活性化プロジェクトが始まり、図書館の周りで学生の皆さんが談笑する光景が増え、賑やかになりました。この一年を振り返り、編者の独断と偏見で図書館3大ニュースをランキングしました。

1. 図書館利用証がスマホで使えます[\[8/3号\]](#)
2. 芥川龍之介の未刊小説、本学で発見[12/21号] 今週号
3. 広小路キャンパスにテーブル・ベンチが設置されました[\[10/26号\]](#)

無理矢理3つに絞りましたが、他にもたくさんあります。皆さんの心に残るニュースはありますか？ただいま広小路キャンパス10大ニュースを募集しています。12/24(日)までに[こちら](#)へお寄せください。

附属図書館は本館/下鴨館共に、年末年始 2023/12/28(木)~2024/1/4(木)休館します。年明けは1/5(金)9:00から開館します。電子ジャーナル、契約データベースは年末年始に関わらず利用できます。どうぞ良いお年をお迎えください。

[Book Review]

池内紀編『尾崎放哉句集』（岩波文庫 緑, 2007）

中学時代に教科書で学んだ自由律俳句。その代表作「咳をしても一人」を詠んだ尾崎放哉の句集。定型俳句時代の作品と後年の自由律の作品で構成されており、好みの作品を見つけるとは、ハッとしたり、フフツとなったり、ニヤリとしたり。一言で言えば「なんかいい」。そう感じたのは、例えば以下のような作品たち。

「心をまとめる鉛筆とがらす」

「ねそべつて書いて居る手紙を鶏に覗かれる」

「なんにもない机の引き出しをあけて見る」

「お祭り赤ン坊寝てみる」

「掛取も来てくれぬ大晦日も独り」

彼の非定型の俳句は、なにかがふっきれたような感があり、比較的現代文っぽい文体であるため、私のような初心者にとって、とっつきやすく、どのページから読んでも、肩が凝らない内容となっている。(T.H.)

(京都府立図書館所蔵「[K-Libnet](#)」で貸出が可能です。)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4003117816>

図書館メール News 第 507 号 2023.12.21 発行（隔週木曜日発行）

編集・発行：京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>